

HUMANO

Vol.2



C O N T E N T S

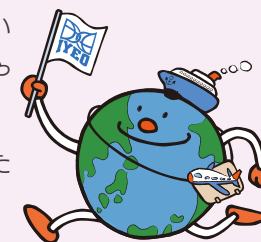
- 2 IYEO会長あいさつ
- 3 規約改正に伴う方向性・前文
- 4 IYEO活動方針・活動分野・活動計画
- 6 IYEO設立30周年プロジェクト報告
- 9 東日本大震災復興支援活動
- 10 熊本地震復興支援活動
- 11 地域における活動
- 12 IYEO本部役員並びに都道府県会長紹介
- 14 国際的な活動
- 16 IYEOへの寄付について

IYEOが発展していくために、協力しあいましょう!

社会に貢献できる団体として、日本青年国際交流機構が発展していくためには、各都道府県IYEOの活動充実と経験ある先輩と新しいメンバーの連携、新しい活動への取組、国際ネットワークの活用、効果的な情報交換など、できることやすべきことが数多くあります。

会員の皆さんと協力しながら、本部並びに都道府県役員一同がんばっていきたいと考えています。

IYEO活動発展のために、会員の皆さんからの寄付や情報提供の協力をお願いします。



～ IYEOへの寄付について ～



口座名：日本青年国際交流機構
口座番号：00140-3-73972
銀行名：ゆうちょ銀行
店番号：019(ゼロイチキユウ)
預金種目：当座
*支援活動継続のために御協力ください
活動報告は本文10ページ参照

熊本地震の
被害に対する支援金



口座名：日本青年国際交流機構
口座番号：10130-81644051
銀行名：ゆうちょ銀行
店番号：018(ゼロイチハチ)
預金種目：普通
*支援活動継続のために御協力ください。

IYEO東日本大震災
復興支援活動



口座名：日本青年国際交流機構
口座番号：00190-2-464228
銀行名：ゆうちょ銀行
店番号：019(ゼロイチキユウ)
預金種目：当座
*一口1,000円から何口でも!!

IYEO
組織基盤作りのために



活動内容：1年(夏・秋・冬・春)
一口10,000円寄付
このうち、寄付者の選択する全国の季節の品をお届けします。旬の品は、会員が関わる事業者に協力をお願いし、おいしくいただける品を選定します。(本文9ページ参照)
*平成28年度秋より受付予定。

IYEOに寄付して、
旬の品を食べよう!

※ウェブサイトを参照ください。<http://www.iyeo.or.jp/>

※IYEOはボランティアの任意団体です。そのため、寄付金控除の対象ではありませんことを御了承下さい。

<寄付について> Email(iyeobokin@iyeo.or.jp)また通信欄に記入にて、下記御連絡ください。

1. 氏名
2. 会員番号(封筒に記載されている番号)
3. 参加事業名
4. ホームページ寄付者名記載希望
5. 住所
6. 電話番号
7. メールアドレス

IYEO広報誌 **HUMANO** Vol.2

編集・発行 日本青年国際交流機構 (IYEO)

International Youth Exchange Organization of Japan

発行日 平成28年7月31日

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14 東京海苔会館6階

電話:03-3249-0767 / FAX:03-3639-2436/ E-mail:humano@iyeo.or.jp

IYEOでは、右記のfacebookページ、Twitter公式アカウントを運用しています。  facebook (iyeo)  Twitter (iyeo)

前 文

日本青年国際交流機構（以下「IYEO」という。）は、国際青年年の昭和60年4月に、当時の事後活動団体であった「日本青年海外派遣青友会」と「青年の船の会」を統合し、本格的な社会貢献活動団体を目指して設立し、活動を継続してきた。30周年を迎えた平成27年、その使命と果たすべき役割を新たに見直して、より一層の飛躍を目指すものである。

内閣府（総理府・総務庁）青年国際交流事業（以下「内閣府青年国際交流事業」という。）は、日本と世界の国々との平和的関係構築のために、青年の人材育成を通して貢献していくことを目指して取り組まれ、さらに、青年が当該事業で得た知識と能力をいかして、人的つながりを継続・発展させ、社会に貢献する力になることを目的としている。

IYEOの会員は、こうした内閣府青年国際交流事業の目的を具体的に実現するために、日本代表青年として青年親善使節大使の役割を担った事業参加時の想いを新たにし、日本人としてのアイデンティティを自覚するとともに民間外交を担う気概を持ちながら、世界の平和、国際交流の発展、そして日本各地域の活性化に貢献するべく、広く賛同者を求めつつ活動に取り組んでいく。

規約より抜粋

第1章 総則

（名称）

第1条 本会は、「日本青年国際交流機構」と称し、英語名は、International Youth Exchange Organization of Japan とし、略称を「IYEO」とする。

（目的）

第2条 本会は、前文に掲げる内閣府青年国際交流事業の歴史と目的を基に、青年国際交流事業で得た個々人の力及び世代、性別、職業及び国を越えたネットワークをいかして、リーダーシップを発揮できる青少年の人材育成に取り組むとともに、日本の各地域の活性化及び国際社会への貢献に資することを目的とする。

（活動）

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業及び活動を行う。

- (1) 国際交流事業
- (2) 国際貢献活動
- (3) 青少年育成事業及び活動
- (4) 内閣府が実施する青年国際交流事業への協力
- (5) 公的機関、団体が実施する青少年国際交流事業への協力
- (6) 会員相互の交流及び研鑽を図る活動
- (7) その他本会の目的達成に必要な事業及び活動

第2章 会員

（会員）

第4条 本会の会員は、次のとおりとする。

内閣府青年国際交流事業の歴史は、今上陛下の御成婚記念事業として昭和34年度に開始された青年海外派遣事業に始まり、平成6年度からは、皇太子殿下の御成婚記念として国際青年育成交流事業に発展的に改組されている。さらに、より多くの青年に海外を体験させるために「青年の船」事業が昭和42年から開始され、「世界青年の船」事業への改組を経て「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」として実施されている。

そして、外交上の契機としては、昭和49年度からは「東南アジア青年の船」事業、昭和54年度から日本・中国青年親善交流事業、昭和58年度から日本・韓国青年親善交流事業が実施されている。また、非営利団体の人材育成を目的として、平成14年度から青年社会活動コアリーダー育成プログラム及び同プログラムを改組して平成28年度から地域課題対応人材育成事業「地域コアリーダープログラム」が実施されている。

こうした内閣府青年国際交流事業をはじめとする青年国際交流事業による青年の人材育成の重要性を強く主張し、今後も青年層に事業が継続して提供されることを強く訴えていくことも、IYEOの重要な役割である。

- (1) 正会員 内閣府青年国際交流事業に参加した者
 - (2) 一般会員 本会の活動の目的に賛同し、共に活動することを希望して入会した者
 - (3) 賛助会員 内閣府青年国際交流事業に参加した指導者及び関係者等、本会の目的に賛同し、本会の事業を賛助するため入会した者
 - (4) 団体会員 本会の活動の目的に賛同し、それぞれの活動情報を共有するとともに、協力して社会の活性化に資することを目的として入会した団体
 - (5) 名誉会員 内閣府青年国際交流事業に貢献及び協力した関係者（正会員、一般会員、賛助会員及び団体会員を除く。）
- 2 入会手続及び会費その他会員に関して必要な事項については、別に定める。

第4章 都道府県機構及びブロック

（都道府県機構）

第9条 本会は、各都道府県に都道府県機構を置き、「〇〇青年国際交流機構」（略称：〇〇都道府県IYEO）と称する。

2 前項の英語名称は、International Youth Exchange Organization of 〇〇（略称：〇〇IYEO）とする。ただし、日英標記共に、一の都道府県機構が従前の伝統に基づく独自の呼称によることを妨げない。

3 各都道府県機構は、本会の目的達成のため独自の活動を行うほか、会務の推進に参画する。

規約を改正しました！

昨年のIYEO設立30周年のテーマ、「創る。つながる。新しいIYEO。」に基づいて、1年間をかけて、規約の改正に取り組みました。

事後活動組織としては、前身の組織が1961年に発足してから、昨年で55年を迎えました。

先輩たちの自主的な活動から始まった歴史をつないできましたが、全国組織を持ち内閣府とも連携している社会活動組織として、

より一層の社会的役割を果たせる存在として発展することを目指し、全国推進会議で話し合い、その精神を規約の前文に記載し、規約の様々な点を見直して改正しました。

本誌にて、その改正のポイントをお伝えします。ので、会員の皆様には、是非ともウェブサイトにて規約全文を熟読ください。その趣旨を理解いただくとともに、各分野、各地域での活動に共に取り組んでまいりましょう！

【日本青年国際交流機構規約】
http://www.iyeo.or.jp/ja/profile/doc/kiyaku_iyeo_160401.pdf

【会員規則】
http://www.iyeo.or.jp/ja/profile/doc/kisoku_kaiin_160401.pdf

IYEOは、より社会に貢献する活動への取組を目指しています。

はじめに、平成28年4月に熊本県内を中心に発生した地震により被災された皆様に、心よりお見舞いを申し上げますとともに、被災地の一日も早い復旧、復興をお祈り申し上げます。

日本青年国際交流機構（IYEO）設立30周年の節目を終え、新しい役員体制で32年目を歩みだしました。私自身、会長として2期目を務めさせていただくことになりましたが、引き続き全国のIYEO会員の皆さんとともに、新たな気持ちで活動に積極的に取り組んでいきたく思っています。今年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年度は、「創る。つながる。新しいIYEO。」のテーマのもと様々な30周年記念プロジェクトを展開してきました。皆様の御協力に感謝いたします。

今年度も、その成果を確認しつつプロジェクトを発展、継続し「IYEO会員マップ」や「IYEOに寄付して旬の品を食べよう！」などを実施していきます。

さらに、昨年度の大きな取組としては、内閣府（総理府・総務庁）青年国際交流事業の長い歴史と事後活動団体としての今までの活動を検証しつつ、今後の10年を見据えた新しい活動指針となるIYEO規約の改正を行いました。

今年度から、新規約を施行します。改めて、日本代表青年として青年親善使節大使の役割を担った参加時の想いを新たにし、日本人としてのアイデンティティを自覚するとともに民間外交を担う気概を持ちながら、世界の平和、国際交流の発展、そして日本各地域の活性化に貢献すべく活動



平成28年度

IYEO会長あいさつ

日本青年国際交流機構
会長 佐藤 恵一

動に取り組む姿勢を規約の前文にまとめました。

そして、その精神を具体的活動に示すために、今年度のIYEO活動方針は、「社会でリーダーシップを発揮できる人材育成を目指して」を掲げ、様々な事業を展開していきます。

特に地方創生の観点から、地域社会を活性化する活動を行政や他団体と連携しながら進めていくことを盛り込みました。また、2020年のオリンピック・パラリンピックに向けて、団体等の要請を受けてボランティア翻訳・通訳活動にも取り組んでいきます。

こうした活動を展開しながら、地域社会で必要とされるIYEOとしての力を蓄えて、対外的な認知度を高めていくことも大切だと考えています。

私自身、昨年は「つながる」をテーマに活動をしてきました。今年は、「つながる」をより進化させ、「一つは「人とのつながりをより強く」「二つは「次代へのつなぎをより強固に」、三つは「地域、団体、世界のネットワークをいかし、より絡んで」を意識し、「つむぐ」をテーマに活動していきたいと考えています。

今年度も、内閣府並びに「般財団法人青少年国際交流推進センター、内閣府青年国際交流事業の外国参加青年との国際的ネットワークをはじめ関係団体等と連携を大切にしながら、IYEOの新たなスタートの年として、全国の会員の皆さんと共により一層の飛躍の年といたく考えています。

全国の会員の皆さん、共に頑張つてまいりましょう。

Ⅲ.本部における活動計画

1. IYEO設立30周年プロジェクトの継続

- (1)設立30周年記念を機に取り組んだ事業を継続しつつ、その企画立案・実施とその成果の取りまとめ
- (2)2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた取組
日本肢体不自由者卓球協会をはじめとする関係団体の活動に協力するために、ボランティア翻訳・通訳活動チームの立ち上げ・実施
- (3)団体会員を中心とした関係団体との交流事業の実施

2. 東日本大震災の被害からの復興活動への取組

- 平成23年3月11日(金)に発生した「東日本大震災」による被害への復興支援を継続的に行うべく、岩手県、宮城県、福島県を中心とした被災地のニーズを把握し、都道府県IYEOとの連携を強化して進めていく。
- (1)東北ビジット／東北へ行くこう!キャンペーン
 - (2)東日本大震災復興支援のための募金活動
 - (3)継続支援を行う地域のニーズの明確な把握、効果的な支援への取組
 - (4)国際交流の視点を取り入れた活動を、被災地において積極的に展開
 - (5)ホームページ等で世界や全国からのメッセージや活動内容の発信

3. 青少年分野についての意識の啓発及び具体的な活動の推進

- (1)子ども・若者施策への提言
- (2)青年のリーダーシップの向上や社会への参画意識を高めることができる内容及び異文化理解を促進する内容の自主事業の企画・運営
- (3)子ども・若者育成支援推進法の普及・啓発への協力
- (4)各種青少年国際交流事業へのリーダー推薦及び公的委員会等への人材推薦
- (5)他分野、他団体との連携活動の推進(共催、後援、協力)
- (6)社会活動(ボランティア活動)の啓発・促進
 - ①「自主活動サポート助成金制度(チャレンジ・ファンド)」
 - ②「ボランティアのすすめ」

4. 国内ネットワークの強化

- (1)各事業直後の全体での事業報告会の開催(年3回)
内閣府及び(一財)青少年国際交流推進センターと共催
 - ①「グローバルリーダー育成事業」報告会 平成28年6月26日(日)
 - ②平成28年度航空機による青年海外派遣報告会 平成29年2月5日(日)
 - ③第43回「東南アジア青年の船」事業報告会 平成29年2月26日(日)
- (2)事業毎の国内ネットワークの自主的強化
 - ①第9回Air-Net Dayの開催
 - ②日本・中国青年親善交流事業関係者による中国同窓会の開催
 - ③各事業関係各国大使館への訪問
 - ④「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」既参加者の情報交換会の開催
- (3)会員情報の把握強化
「IYEO会員データベースプロジェクト」の継続

5. 全国大会の開催

第32回全国大会新潟大会 日程:平成28年8月27日(土)～28日(日) 開催地:新潟県

6. 全国推進会議の開催

第64回全国推進会議 日程:平成28年8月26日(金)～27日(土) 開催地:新潟県
第65回全国推進会議 日程:平成29年2月11日(土)～12日(日) 開催地:東京都

7. ブロック大会(青少年国際交流を考える集い)

平成28年度中に8ブロックにおいてブロック大会を開催する。今年度北信越ブロックについては、全国大会と同時開催とする。
ブロックごとに活動方針に沿ったテーマを設定し、ブロック大会開催の際に掲げて、会員の活動についての共通認識の形成と意識高揚に資する。

8. 都道府県IYEO役員研修の開催

都道府県IYEOで事務局を担当する役員メンバーから代表者を集めて、実務研修を行う。都道府県IYEOの活動基盤の充実を図ることにより、全国組織としての組織基盤の確立を目指して人材育成の一環として行うものである。
日程:平成28年6月4日(土)～5日(日)(一泊二日) 開催地:東京都

9. 海外とのネットワークの強化

- (1)SSEAYPインターナショナル第28回総会の開催
(日程:平成28年4月29日(金)～5月2日(月) 開催国:カンボジア)
- (2)「世界青年の船」事後活動組織(SWYAA)国際大会の開催
(日程:平成28年9月20日(火)～9月24日(土) 開催国:インド)
- (3)中華全国青年連合会を基本にした日本・中国青年親善交流事業の中国既参加青年と連携
- (4)日本・韓国青年親善交流事業の韓国既参加青年との連携
(第13回「日韓交流連絡会議」の開催 日程:調整中 開催国:韓国)
- (5)国際青年育成交流事業のネットワーク形成に向けた調整
国内におけるAir-Net Day の開催などを軸におきながら継続的派遣国を中心に発展
- (6)青年社会活動コアリーダー育成プログラムのネットワーク形成に向けた調整

10. 国際並びに国内支援活動

- (1)インドシナ津波被災国であるスリランカへの支援(スリランカ教育支援プロジェクト)を始めとする「世界青年の船」事後活動組織(SWYAA)における国際支援活動の継続
- (2)タイの「For Hopeful Children Project」への支援活動を始めとする「東南アジア青年の船」事業事後活動連携組織(SSEAYPインターナショナル)における国際支援活動の継続
- (3)事後活動組織の国々においての災害に対して、各国事後活動組織との連携による支援
- (4)各都道府県においての災害に対して、都道府県IYEOとの連携による支援

11. 平成28年度、29年度内閣府青年国際交流事業募集広報への協力並びに団体としての広報活動強化

IYEOの社会活動団体としての活動実績を明確にアピールし、非営利団体としての社会的役割を広く知らしめるための広報活動に力を入れるとともに、内閣府青年国際交流事業の充実を図るために、参加者募集広報活動の協力に重点を置いて取り組む。

- | | |
|---------------------|-----------------|
| (1)事業広報 | (2)団体広報 |
| ①年間を通しての広報活動の工夫 | ①広報誌等の活用 |
| ②事業報告会及び事業説明会の開催 | ②IYEOライブラリーの更新 |
| ③大学での事業説明会への協力 | ③ソーシャルメディアの活用 |
| ④募集パンフレットの配布先の開拓 | ④その他、効果的なツールの活用 |
| ⑤マスコミへの紹介 | |
| ⑥企業への事業説明 | |
| ⑦その他、効果的な広報活動を検討し推進 | |

12. 事後活動「Bulletin Board」の発行

年4回(全体発送と全国大会案内、事後活動ニュースの発送時に同封)発行
都道府県IYEOの連絡文書発行に協力(A4両面スペースに都道府県またはブロックごとに印刷して全体送付の際に同封)

13. 財政基盤の確立

会員に対しての呼びかけを含め、継続的な寄付金収入の確保に努める。
財政強化検討チームによる、具体的な財政基盤の強化への積極的取組

Ⅰ.活動方針

社会でリーダーシップを発揮できる人材育成を目指して

現代のグローバル社会においては、幅広い視野を持って柔軟に新しい取組を考え、実行できる人材が必要とされている。
日本青年国際交流機構設立30周年に当たり、次の10年を見据え、内閣府青年国際交流事業で培われた青年育成のノウハウと事後活動組織として半世紀を超え築き上げた実績とネットワークをいかし、社会で活躍できる人材育成に取り組む。

1. 青年層活性化の基盤づくりに取り組もう

社会活動における青年のニーズを把握して、青年の活動の場作りと環境整備に取り組むべく、国に対して青年施策についての提言を積極的に行う。同時に、これまで培ったノウハウを次世代へ継承するとともに、他団体との連携等による地域活動の促進、青年による社会の活性化を目指す。

2. 地域社会を活性化するとともに地域に貢献できる人材育成に取り組もう

地域における国際交流活動を含む社会活動に積極的に取り組み、世界との距離を狭めるとともに、地域のニーズに合った貢献ができる人材の育成に努める。

3. 国際ネットワークをいかした国際協力活動に取り組もう

国内外における様々な課題に対応するため、国際協力活動を推進し、社会に貢献していく。

Ⅱ.主な活動分野

日本青年国際交流機構
設立30周年プロジェクトへの継続
※詳細はP6-8参照

第1分野：青少年分野についての活動の啓発

- (1)全国の会員からの意見をまとめて、国の子ども・若者施策に対して提言書を提出
- (2)国及び地方自治体の青少年に関する法律及び条例の普及・啓発への協力
- (3)若者の人材育成並びに意識啓発を目的とした独自の自主事業への取組
- (4)社会活動の推進
- (5)青少年分野にかかわる公的な場への人材推薦及び積極的発言
- (6)他団体との連携

第2分野：地域の活性化に資する活動

- (1)チャレンジ・ファンドを活用した地域と連携したプロジェクトの実施
- (2)地域課題解決に向けた国際的視野と専門性をいかしたフォーラム等の開催
- (3)地域の行政や他団体と連携して、地域の特色や産業の国内外への発信

第3分野：地域における国際交流活動を基本にした人材育成

- (1)短期の海外派遣事業
- (2)国際理解を深める勉強会やワークショップなどの研修プログラムの開催
- (3)小中学校の国際理解教育への協力
- (4)在住外国人への支援活動や地域の人々との交流プログラムの実施
- (5)内閣府青年国際交流事業報告会の開催

第4分野：国際交流事業受入れへの協力・自主事業による外国青年受入れ／派遣

- (1)青年国際交流事業へのプログラム内容の提言
- (2)行政・団体等との連携による地元青年を含めての受入実行委員会の組立て
- (3)ホームステイのアレンジ
- (4)地域産業並びに多様な分野との連携による外国青年の日本理解促進
- (5)団体及び大学との連携によるディスカッションプログラムの組立て

第5分野：都道府県IYEO及び会員のネットワーク強化と啓発活動

- (1)全国大会、ブロック大会(青少年国際交流を考える集い)などの開催
- (2)都道府県IYEO役員研修の開催
- (3)ブロック内IYEO間の連携強化の取組
- (4)各事業の既参加者の縦のつながりを促進する取組による国内ネットワーク強化
- (5)プリテンボード発行などによる会員間の情報共有
- (6)会員情報の把握強化

第6分野：国際協力活動

国内外で起きる災害や諸問題に対して、各国の事後活動組織と連携して問題解決に向けて取り組む

第7分野：内閣府青年国際交流事業の外国参加青年とのネットワーク

- (1)「東南アジア青年の船」事業のASEAN各国事後活動組織との国際連携組織(SSEAYPインターナショナル)
- (2)「世界青年の船」事業参加46か国の事後活動組織との国際連携組織(SWYAAインターナショナル)
- (3)中華全国青年連合会を基本にした日本・中国青年親善交流事業の中国既参加青年との連携
- (4)日本・韓国青年親善交流事業の韓国既参加青年との連携
- (5)国際青年育成交流事業の交流国であるドミニカ共和国とバルト3国のネットワーク形成
- (6)地域コアリーダープログラムのネットワーク形成

第8分野：広報活動への積極的取組

- (1)内閣府青年国際交流事業募集広報への協力
- (2)団体をアピールするための広報

第9分野：財政基盤の確立

将来を展望した運営と財政基盤確立を目指した、財政強化検討チームの活動強化



今後IEYOの活動を継続して更なる発展を目指す、IEYO設立30周年プロジェクト実行委員会を中心に、会員及び関係者と共に、様々な活動を全国で行いました。



■IEYO会員マップ
都道府県IEYOごとに、社会で活躍し影響を与えている会員を紹介する「IEYO会員マップ」素案を作成しました。57年にわたる内閣府青年国際交流事業の参加者の世代間コミュニケーションを促進し、同じ志を持って活動する仲間との連携を図り、IEYOの人材の豊富さを、会員や一般の方に知らせることをねらっています。現在都道府県IEYOを窓口として随時更新していきます。

1. グローバルなマインドを持って活躍できる青年を育成し、地域の活性化に貢献するプロジェクト
■ビジット東北ツアー
地域への貢献をコンセプトにビジット東北ツアーを実施し、2011年3月の東日本大震災被災地である岩手県陸前高田市と大船渡市を訪問しました。ツアーには、海外からの参加者11名を含む40名が参加し、被災地の現状について学びました。

IEYO設立30周年プロジェクト実施概要

1. 目的: ①国際交流を通じて、リーダーシップを発揮できる青年を育成する。
②継続的に青少年分野においてリーダーシップを取れる団体としての対外的認知度を上げ、社会的信頼を厚くする。
2. ねらい: 世界にネットワークを持つ全国レベルの青少年団体として、次の3点の実現を目指す。
①グローバルなマインドを持って活躍できる青年を育成し、地域の活性化に貢献する。
②IEYOの活動やIEYO会員の活躍を積極的に発信することでブランド力を高める。
③行政や他団体と広く連携し、青少年団体の中核を担う。
3. 期間: 平成27年4月1日～平成28年3月31日
4. 主管: IEYO設立30周年プロジェクト実行委員会

IEYO設立30周年企画プロジェクト 実施報告

平成27年2月	実行委員会立ち上げ
3月中旬	IEYOキャラクター選定プロジェクト
4月～	九州ブロック:IEYO設立30周年リレープロジェクトIn九州
5月2日	北信越及び北海道・東北ブロック:新潟×東北(福島・宮城・岩手)チュールリップ大作戦
6月6日	関東ブロック:ブロック内訪問ツアー① 群馬県:大泉町文化体験ツアー
7月18日	関東ブロック:ブロック内訪問ツアー② 山梨県:富士山体感ツアー
7月18-19日	北海道・東北ブロック大会青森大会
7月24-26日	ビジット東北ツアー
7月31日	HUMANO (IEYO独自広報誌) 創刊
8月29-30日	全国大会高知大会
8月30日	IEYOキャラクター表彰式
10月17日-18日	近畿ブロック大会奈良大会
10月24日	関東ブロック:ブロック内訪問ツアー③ 埼玉県:川越ツアー
11月28-29日	北信越ブロック大会石川大会 関東ブロック大会千葉大会
11月29日	関東ブロック:ブロック内訪問ツアー④ 千葉県:成田空港ツアー／成田山ツアー
12月5-6日	中国ブロック大会鳥取大会
12月～	「IEYOに寄付して、東北の旬を食べよう」開始
平成28年1月30日	関東ブロック:ブロック内訪問ツアー⑤ 神奈川県:中華街ツアー
2月	IEYO会員マップ素案完成
3月26日	近畿ブロック:「インドネシア・イェメン食文化交流パーティ」
3月	神奈川県IEYO IEYO設立30周年記念冊子発行



内閣府青年国際交流事業の前担当副大臣である赤澤亮正衆議院議員(中央)と共に(中国ブロック大会鳥取大会)

3. 行政や他団体と広く連携し、青少年団体の中核を担うプロジェクト
■自民党青年局定例昼食会における事業説明会
自民党青年局主催で実施された定例昼食会が、1月29日(金)に自民党本部において行われ、牧原秀樹青年局長、高木宏壽内閣府大臣政務官の他、19名の青年局員の出席の中、大橋玲子副会長による内閣府青年国際交流事業の説明、吉野恵さん(第28回、36回「東南アジア青年の船」事業既参加青年)による体験談発表と質疑応答が行われました。

■平成27年度「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」事業既参加青年東京連絡会議出席者による自由民主党青年局長表敬訪問
2月22日(火)に、31か国のSWYAA代表者及び3名の本部役員が、牧原秀樹自由民主党青年局長を表敬訪問しました。



詳しくはこちら⇒ <http://ieyolibrary.blog.fc2.com/>
IEYO会員等による著作をウェブサイト上で紹介するIEYOライブラリーが、IEYO設立30周年にあたる、平成27年に公開されました。さまざまな分野で活躍する会員による著作を通じて、IEYOの人材の特色や幅広いネットワークを知ることができます。
ウェブサイトには、著作の紹介と共に、ここでしか読めない、著者から会員の皆さんへのコメントが掲載されています。現在の登録数は44点ですが、随時更新しています。
IEYOライブラリーへの追加や推薦したい図書の御相談は、IEYOライブラリー実行委員(ieyolibrary@ieyo.or.jp)へ御連絡ください。

■「IEYO独自広報誌」HUMANO「誕生」
IEYO活動の、より詳細な情報をお伝えするために、独自の広報誌「HUMANO(ウマノ・ラテン語で「人」を意味します)」を発行しました。
■「フアンドレーシング」
「IEYOに寄付して、旬の品を食べよう」
東日本大震災の被害を受けた東北エリアへ思いを馳せながら、被災地の方々にもIEYOにとってもメリットのあるフアンドレーシングプロジェクトを始めました。
IEYOの応援者で寄付をしてくださる方にIEYO会員が提供する東北の特産品をお礼の品として送ります。

2. IEYOの活動やIEYO会員の活躍を積極的に発信することでブランド力を高めるプロジェクト
■IEYOキャラクター選定プロジェクト
平成27年1月中旬～3月中旬の募集期間に22作品の応募があり、選考の結果「ランナス」が選ばれました。是非活用ください。



して送ります。そうすることで、多くの方に東北エリアを応援しながら、IEYOの魅力を知ってもらい、寄付者の拡充にもつながることをねらっています。第1回目は16口の支援者に御協力いただきました。平成28年度からは、対象エリアを東北から全国に広げて、フアンドレーシング活動を継続予定でです。



牧原秀樹自由民主党青年局長(右)と第42回「東南アジア青年の船」事業日本参加青年との懇談

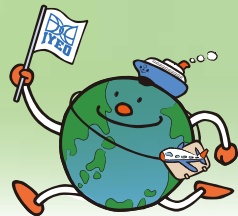
■自由民主党青年局長と若手会員との懇談会
自由民主党青年局長及びIEYO共催で実施された「自由民主党青年局長と若手会員との懇談会」が、2月20日(土)に国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて行われ、佐藤恵会長他3名の本部役員と共に、第42回「東南アジア青年の船」事業参加青年8名が牧原秀樹青年局長と懇談をしました。



4. ブロックごとに実施したプロジェクト
■北信越及び北海道・東北ブロック:新潟×東北(福島・宮城・岩手)チュールリップ大作戦
被災者(笑顔と元気を届けることにより、東日本大震災の復興を支援するとともに、4年を経過した現地を訪問すること、今後のIEYO会員の活動強化やネットワーク構築に役立てることを目的に、東日本大震災の被害を受けた宮城県塩釜市、岩手県大槌町へ、5月2・3日、新潟県のチュールリップと真心を届け、地域の方々と花絵を作成しました。



東日本大震災復興支援活動



平成27年度の縁側カフェ活動

4月26日	長洞仮設	IYEO縁側カフェ チューリップ花絵大作戦にて IYEO縁側カフェ 住民の方からのリクエストで、岩手 県IYEO会員の紹介により5人の フィリピン人による英会話レッス ン
5月3日	大槌町福幸きりり商店街	チューリップ花絵大作戦にて IYEO縁側カフェ
5月10日	長洞仮設	IYEO縁側カフェXフィリピン家 庭料理
6月14日	大槌町お楽しみ市 「何あんだべー」	売上金は全額「お互いさま募 金」へ寄付(ネパール支援)
7月12日	大槌町お楽しみ市 「何あんだべー」	売上金は全額「お互いさま募 金」へ寄付(ネパール支援)
8月2日	長洞仮設公民館	IYEO縁側カフェ 「岩手弁バージョン」のラジオ体操 でリフレッシュ!
10月11日	大槌町お楽しみ市 「何あんだべー」	売上金は全額「お互いさま募金」 (栃木の洪水被災地)へ寄付
11月8日	大槌町お楽しみ市 「何あんだべー」	売上金は全額「漁協婦人部」 へ寄付
11月15日	田野畑村切牛地区黎明 団地(復興住宅)の 集会所	IYEO縁側カフェ

平成27年度 坂本達さんによる講演会活動

7月1日	盛岡市立仙北中学校	全校生徒540名対象
7月2日	石巻市立蛇田小学校	6年生112名対象
7月3日	名取市立名取第二中学校 名取市立ゆりが丘小学校	生徒414名及び保護者対象 4年生74名対象
2月22日	大船渡市立末崎小学校	5・6年生60数名対象
2月23日	盛岡市立見前中学校	1・2学年親子講演会にて、PTA、 職員含め約500人対象
	津志田老人福祉センター	利用者、職員など85名対象

「東南アジア青年の船」事業既参加青年(第31回参加者、第18回NL)の坂本達氏が企画する「東日本大震災の復興を支援するチャリティー・トークイベント」開催の依頼に基づいて始まった講演会ですが、近年は地元のエニズで依頼があり、岩手県及び宮城県で実施しました。平成28年は秋ごろ、3県で実施予定です。

③坂本達さんによる講演会

②新潟X東北福島(宮城・岩手)チューリップ花絵大作戦
北信越ブロックと東北ブロックのIYEOとの共催「チューリップ花絵大作戦」が、岩手県IYEO、宮城IYEO、船と翼の会ふくしまのコーディネートと新潟県IYEOの大きなバックアップにより実施されました。(詳細はP7参照)

IYEO東日本大震災復興支援募金活動

16,406,461円

(団体10,632,049円、個人5,774,412円)の寄付が集まりました(平成28年3月31日迄)。
主な用途は、支援金、支援物資送付、事務経費です。

IYEO東日本大震災復興支援活動(岩手県、宮城県、福島県主催)
内閣府青年国際交流事業既参加者の経験や知識、情報、アイデアをいかながら、IYEOが東日本大震災の被災地の復興に貢献する活動を、岩手県、宮城県、福島県のIYEOが主催する際に、必要に応じてIYEO東日本大震災復興支援金を役立てました。

東日本大震災から5年。IYEOは東日本大震災発生直後から、東北3県のIYEO会員と連携し、様々な活動をしてきました。これまでの活動をまとめて紹介します。



山梨県富士山体感ツアーで世界文化遺産に登録された富士山周辺の観光スポットを訪れ、外国人観光客の様子や見どころを知ること自国の文化理解を深めるとともに、外国人に日本文化を紹介するための一助とした



埼玉県川越ツアーで芋ほり体験して親睦を深めた参加者

実施に当たり三つの目的(I. 関東ブロック内の外国を感じられる場所、あるいはその県らしさを感じられる場所への訪問ツアーを開催し、国際理解や国際交流の力を育む。II. 訪問地の各県IYEOが各プログラムの企画・運営を行うことにより、地域とのつながりをより強め、併せてリーダーシップ力を高める。III. 関東ブロックとしての絆を強める。)はいずれも達成することができ、平成28年度も引き続き活動を発展させていく予定です。

- 関東ブロックIYEO設立30周年プロジェクト「関東ブロック内訪問リレーツアー」
関東ブロックでは、「関東ブロック内訪問リレーツアー」を5回実施しました。
- ①群馬県：大泉町文化体験ツアー(ブラジルタウン)
- ②山梨県：富士山体感ツアー(古の富士講文化)
- ③埼玉県：川越ツアー(芋掘り・城下町)
- ④千葉県(ブロック大会)地域理解研修：成田空港ツアー／成田山ツアー(成田空港：機内食ランチ・滑走路立入禁止区域・管制塔見学)
- ⑤神奈川県：中華街ツアー(中華学校授業体験・横浜開港資料館・中華街)



ブュッフェスタイルで2か国の食事をいただきました。



講師2名(前列右から3人目と2人目)との集合写真

■近畿ブロック：インドネシア・イエメン 食文化交流パーティ
近畿ブロックでは、IYEO設立30周年記念イベントとして、「インドネシア・イエメン 食文化交流パーティ」を、2016年3月26日(土)に開催しました。インドネシアのウイナさん(第17回「東南アジア青年の船」事業参加青年、第42回「東南アジア青年の船」事業ナショナルリーダー Ms. Syatrina)、イエメンのハニさん(第22回「世界青年の船」事業参加青年 Mr. Hamid Shareef)による手料理を囲み、ウイナさんからは出身地のアチエの復興について紹介があり、ハニさんからはイエメンの歴史について説明がありました。

また、平成27年度「東南アジア青年の船」事業及び次世代グローバルリーダー育成プログラム「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」の参加者から帰国報告があり、参加者もそれぞれの訪問国を言紹介するワールドマップ作成に加わり、41名(IYEO会員及び一般参加者)が親睦を深めました。

~IYEOに寄付して、旬の品を食べよう!~

日本青年国際交流機構(以下「IYEO」という。)では、平成27年度IYEO設立30周年を機にIYEOへの寄付金額の増額をはかり、財政基盤の充実に向けて「IYEOへ寄付して、旬の品を食べよう!」を企画・実施しました。本プロジェクトは、平成28年度よりその続編として、継続的な財政基盤の強化を目指して実施します。

本プロジェクトを通して、IYEOを応援される方に全国のIYEO会員が手がける特産品等を返礼品として贈り、IYEOへの「寄付」に対する関心を高めるとともに、寄付に対する感謝の気持ちを伝えます。また、IYEO会員はもとより、IYEOに縁がある方をはじめ多くの方々へ全国の魅力的な商品や特産品のすばらしさを知ってもらうことにより、IYEOの魅力やIYEOに対する興味・関心が高まり、活動が広がることをねらいます。

目的

プログラム内容

- (1)実施時期・期間：平成28年秋(予定)～平成29年3月31日(秋・冬・春・夏の四つの季節から1季節を選択)
- (2)実施取扱：IYEO事務局(申込受付)
- (3)対象：IYEO会員 限定 (4)対象人数：100口限定
- (5)具体的な活動内容：1年(夏・秋・冬・春)一口10,000円の寄付のうち、寄付者の選択する全国の旬の品が届く。旬の品は、会員が関わる事業者と協力をお願いし、おいしくいただける果物や商品を活用し、商品を送付する。
- (6)期待できる効果：寄付金額の向上。寄付を通じて会に貢献する意識の醸成。
- (7)申込方法：IYEOウェブサイトにて秋より詳細を掲載し、申込受付予定
- (8)商品(予定)

秋	10月中旬	米	11月中旬	米、キウイ詰め合せ
冬	1月	りんご	—	—
春	6月上旬	わかめ	6月後半	めかぶ
夏	8月中旬	乳製品詰め合せ	8月後半	さくらんぼ

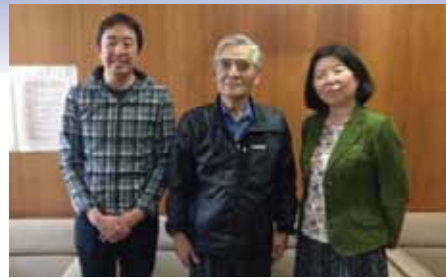


■IYEO設立30周年リレープロジェクト
九州ブロックで作成した共同イベント用の「IYEO設立30周年」横断幕が、沖縄県から出発して九州各地を周った後、1年をかけて全国で実施された様々なIYEOイベントを周り、会員が集まる機会に使われ、活動を盛り上げました。

1年間の活動事例

★平成28年度の都道府県IYEOの主な活動予定

4月	役員会、都道府県庁担当所管課への御挨拶、内閣府での二次試験に向けたアドバイス会	
5月	総会実施	
6月	都道府県 IYEO 役員研修	
7月	今年度派遣者壮行会実施(各都道府県IYEOで実施)	
8月	新潟県で全国推進会議(都道府県の代表者)全国大会(全会員が対象)	
9月 1月	様々な内閣府青年国際交流事業の地方プログラムの受入が各地で行われます。 (下記、受入れ一覧参照)	
10月	地域の活動への協力(他団体との協力)	
11月	ブロック大会実施(会員全てが対象)	
12月	地域の留学生との交流会(独自事業)	
1月	下旬からは、平成29年度の内閣府青年国際交流事業の参加青年募集開始、 各都道府県IYEOでは翌年度の事業説明会(～3月)	
2月	全国推進会議	
3月	活動実績報告書整理	



藤岡孝輔南阿蘇村教育長(中央)に寄付金を渡す大橋玲子会長代理(右)、土井敦鹿児島県IYEO会長

熊本地震復興支援金 1,266,688円
(団体551,247円、個人715,441円)の寄付が集まりました(平成28年7月27日迄)。主な使途は支援金、支援物資送付、義援金です。

口座名称:日本青年国際交流機構
【ゆうちょ銀行から】郵便振替口座 00140-3-73972
【他行から】銀行名:ゆうちょ銀行、金融機関コード:9900、
店番:019、預金種目:当座
店名:〇一九 店(ゼロイチキユウ店)、口座番号:0073972
*備考欄記載またはオンラインフォームで御連絡ください。
(<http://goo.gl/forms/UxyKC2c6Fm>)にて、
「1.熊本地震の被害に対する支援金 2.氏名 3.参加事業年度」

★ブロック大会実施

平成28年度ブロック大会実施開催一覧

開催県	開催日(案)	会 場
秋田県	12月3日(土)-4日(日)	田沢湖芸術村 ゆほぼ(仙北市)
埼玉県	11月12日(土)-13日(日)	【1日目、宿泊】川越東武ホテル(川越市) 【2日目】川越市南公民館(川越市)
新潟県	8月27日(土)-28日(日)	岩室温泉ゆもとや(新潟市)
静岡県	7月2日(土)-3日(日)	マイホテル竜宮(静岡市)
兵庫県	1月28日(土)-29日(日)	青少年宿泊研修センターOAAはりまハイツ(加古川市)
島根県	7月23日(土)-24日(日)	会場:ゆきみーる(大田市) 宿泊:スカイホテル大田&NEWスカイホテル(大田市)
徳島県	7月16日(土)-17日(日)	会場:とくぎんモニプラザ(徳島県青少年センター)(徳島市) 宿泊:アグネスホテル徳島(徳島市)
福岡県	11月26日(土)-27日(日)	会場:太宰府館(太宰府市) 宿泊:ルートイングランディア大宰府(太宰府市)

★平成28年度内閣府青年国際交流事業の受入れ一覧(予定)

●国際青年育成交流	和歌山県・富山県、島根県・大阪府、函館市・香川県	10月1日～10月9日
●日本・中国青年親善交流	岩手県 岐阜県	11月9日～11月11日 11月11日～11月14日
●日本・韓国青年親善交流	愛知県 滋賀県	7月26日～7月29日 7月29日～8月1日
●東南アジア青年の船	宮城県、福島県、栃木県、長野県、三重県、兵庫県、奈良県、岡山県、 徳島県、高知県、長崎県	10月27日～10月30日
●次世代グローバルリーダー事業 「シブ・フォー・ワールド・ユースリーダーズ」	福井県、京都府、広島県、山口県、熊本県	1月19日～1月22日
●地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」	鳥取県、大分県、鹿児島県	2月21日～2月26日

IYEOは、各都道府県に青年国際交流機構(独自の名称の場合あり)を組織し、各都道府県が実施している青年国際交流事業に参加した青年たちとも連携を取りながら活動しています。
都道府県ごとのIYEO会員数は100名～1800名と幅広いため、それぞれ活動の規模は違いますが、都道府県IYEOの1年間の活動の流れを知っていただくために年間予定を紹介しています。

熊本地震からの復興への支援に向けて
～IYEO会員の応援を届けましょう～

4月14日の震度7から二日も経たない4月16日未明に震度7を超える本震に襲われ、その後の絶え間ない余震の恐怖が続いた熊本。

3か月を経て、マスコミ報道にもほとんど取り上げられなくなった今、被災者の皆さんの状況はどのようなになっているのでしょうか。

罹災証明も受けない方が、未だに数多くいらっしゃるということです。

日本青年国際交流機構では、熊本県の役員やメンバーから情報をいただき、継続して皆さんにお伝えしていきます。会員の方でも被災され、自宅に住めない状況の方々もいらつやいます。こうした会員の皆さんに、是非ともお見舞い金をお送りしたく存じます。また、多くの方々の支援に取り組んでいる会員もいます。そうしたメンバーの活動支援も行っていきたいと思います。

今回は、震災の1週間後に熊本に支援物資を届けてくれました。鹿児島県IYEOの土井会長と熊本県在住の村本九州ブロック幹事からのメッセージをお届けします。また、南阿曽村教育長を第2回「青年の船」の藤岡孝輔さんがお勤めである御縁から、南阿曽村教育委員会に寄付金50万円を届けましたことを報告します。

被災から3か月、熊本の今

IYEO九州ブロック幹事 村本 きよみ

4月14日21時26分、いつもの夜を迎えていた熊本が二変して3か月が経ちました。翌日の4月16日未明、マグニチュード7.3のまさかの『本震』が起き、さらに状況は悪化し余震に怯える日々。随分余震は減りましたが、心の奥に刻まれた恐怖の記憶は簡単には消えないようです。余震は1900回を超えました。震度1や2でも、揺れを感じるとまたあの大きな揺れが来るのではないかと、身構える日々です。目に見えない自然の威力にどうすることもできず、ただ収まるのを祈るしかない時間が過ぎます。

地震発生から全国各地の皆様からの支援に心より感謝申し上げます。皆様の支援のおかげでライフラインは、予定より早めに復旧し、日常も取り戻しつつありますが、復旧はまだこれからです。熊本の会員の中にも、自宅が全壊、半壊、部損壊のメンバーがいます。避難所で生活する人は、発震当初の 万人から4千人となり、仮設住宅への転居も進んできています。しかし、依然車中泊や自宅敷地内でテント生活を続けている人も多そうです。

熊本市では、ようやく全半壊した家屋の公費解体が始まりました。罹災証明の申請は16万件を超え、証明書の交付済みはまだ8割とのこと。道路はうねり、余震の影響で亀裂は増え、車社会の熊本では各所での渋滞も日常となりました。熊本県民のシンボル、熊本城も見ると無残な姿となり、震災後の大雨でも被害が増えたとようです。

歩き始めたばかりの復興。課題は山ほどありまだまだ先は見えませんが、熊本県の会員に留まらず、今後ともIYEOとして各所の支援を続けていきたいです。がんばるけん、熊本県！



瑩光保育園児からのりんごのお礼メッセージ

熊本支援活動に駆けつけて
今後の活動に求められること

IYEO鹿児島 会長 土井 敦

SNSが普及している今、被災直後から、本場に様々な情報が飛び交う。私も鹿児島から何かできることはないかと、情報を集めていたが、情報が錯綜しすぎて、どのような支援が正解か分からない状況が続いていた。

例えば、「今は現地に行く」と迷惑になる」という情報も飛び交っていたが、たとえそれが被災者自身の発信した情報であっても、余震も続く状況で、支援者を被災者にしてはいけないという正義感から発信していることが多かった。実際に、支援物資を届けた際も、本当に辛い状況でありながらも、私たちを気遣い、被災者同士助け合って生活されており、頭の下がる思いでした。

震災1週間後の4月20日の現場に入った実感としては、現地入りする時間帯の考慮や、トイレ、食料、泊まる場所などを自己完結できれば、必ず支援は必要であるということ。もちろん、現地での活動も、指示を待つではなく、必要と思われることを自ら動いていくような活動が求められる。

今回、一番に感じたのは、支援の形は、立場によつて役割が変わるということである。行政や、公的なボランティアは、公平中立の立場上、できる支援とできない支援がある。例えば、目の前に支援物資があつて、困っている人がいても、避難者全員分なければ配布できない状況や、避難所の段差を、高齢者、障害者が転倒しないように整えようと思つても、活動の許可を申請し、上層部の許可が下りるまでにかんがりの時間を要する状況などがあつた。今後、そのような公的なボランティアの隙間を埋めるような民間ボランティアサポートを、IYEOで活動ができればと思う。

現在、メディアでは被災地の状況が報道されることはほとんどなくなっている状況であるが、人的支援、物的支援、ストレスケアなど、まだまだ継続的に支援は必要な状況であることに変わりはない。支援活動が下火になった今の時期だからこそ、継続的な活動が求められる。

日本青年国際交流機構 本部役員並びに都道府県会長紹介

IYEOは、ボランティア組織として歴史を重ねてきました。運営は、基本的に仕事を別途持った無償ボランティアの役員によって行われており、本部役員と47都道府県ごとに組織を置いて役員体制をとっています。

全国都道府県IYEOの役員を御紹介したいところですが、ここでは、本部役員と都道府県会長を紹介させていただきます。

会員の皆さま、都道府県IYEOの役員メンバーに、是非ともコミュニケーションを取ってくだされば幸いです。

【表記について】

- 平成28年4月1日現在最初に参加した事業を掲載
- 事業略称：航空機派遣（派遣先）
青年の船（船）、東南アジア青年の船（東ア）
世界青年の船（世界）、青年社会活動コアリダー育成事業（コア）、
日本・中国青年親善交流事業（日中）、日本・韓国青年親善交流事業（日韓）
県単派遣事業（県単）

IYEO本部役員一覧 平成28年度4月1日現在

役 職	氏 名	参加事業
会 長	佐藤 恵一	S61船(20回)
会長代理	大橋 玲子	S55船(14回)
副会長(国際)	白鳥 正信	H5東ア(20回)
副会長(組織)	高下 正晴	H2世界(3回)
副会長(総務)	本田 温子	H10世界(11回)
副会長(組織)	田村 香子	H10ドミニカ共和国(5回)
副会長(PR)	長末 辰也	H12世界(13回)
ブロック幹事		
北海道・東北	菅野 裕子	H12世界(13回)
関 東	青木 優子	H10日中(20回)
北信越	間嶋 祐樹	H13世界(14回)
東 海	齋藤 佳子	H1世界(2回)
近 畿	寺西 由佳	H12世界(13回)
中 国	更田 匡史	県単派遣
四 国	田中 千代	S61日中(8回)
九 州	村本 きよみ	H10世界(11回)
幹事		
事務局長	得能 淳	H17世界(18回)
事務局次長	桑原 真哉	H17チリ(12回)
事務局次長	田畑 静吾	H16東ア(31回)
国際担当幹事	齋藤 珠恵	H9世界(10回)
組織担当幹事	田中 純子	H7世界(8回)
PR担当幹事	川嶋 伸明	H14日韓(16回海外団員)
国際担当幹事	福田 達男	H16コア(3回)
組織担当幹事	赤木 功	H7世界(8回)
PR担当幹事	岡田 康宏	H11世界(12回)
PR担当幹事	小島 まき子	H20世界(21回)
監査		
監査役	吉岡 誠	H21日韓(23回副団長)
監査役	野村 隆紹	H6日中(16回)
顧問及び参与		
顧問	酒井 洋幸	S42中欧(9回)
顧問	田中 南欧子	S55東ア(7回)
顧問	大河原 友子	S62東ア(14回)
参与	中野 智昭	S61船(20回)
参与	田中 克宜	S54アフリカ(21回)
参与	上杉 聖次	S54船(13回)

最新の情報はウェブサイトを御覧下さい。
<http://www.iyeo.or.jp>

＜47都道府県8ブロック制＞

都道府県IYEO会長 平成28年7月22日現在

北海道・東北ブロック

北海道 青森 岩手
宮城 秋田 山形 福島

北海道青年国際交流機構	藤井 花	H24ヨルダン(19回)	hokkaidoiyeo@yahoo.co.jp
青森県青年国際交流機構	佐藤 彩子	H16日韓(14回)	aomoriyeo2015@gmail.com
岩手県青年国際交流機構	高橋 直幸	H21世界(22回)	iwateiyeo@yahoo.co.jp
宮城青年国際交流機構	伊勢 みゆき	H12世界(13回)	miyagi.iyeo@gmail.com
秋田県青友会	エヨン 宏枝	H14世界(15回)	iyeo.akita@gmail.com
山形県青年国際交流機構	鏡 千尋	H20日韓(22回)	※hq@iyeo.or.jp
船と翼の会ふくしま	山崎 庸貴	H14日韓(16回)	funetotubasa@hotmail.co.jp

関東ブロック

茨城 栃木 群馬 埼玉
千葉 東京 神奈川 山梨

茨城県青年国際交流機構	深谷 めぐみ	H4世界(5回)	ibaraki-iyeo@hotmail.co.jp
栃木県青年国際交流機構	赤木 克葉	H5日中(15回)	※hq@iyeo.or.jp
群馬青友会	岡村 和代	県単派遣	※hq@iyeo.or.jp
埼玉県青年国際交流機構	大島 修一	H3日韓(5回)	saitamaiyeo@gmail.com
千葉県青年国際交流機構	石原 裕文	H19カンボジア(14回)	chibaiyeo@gmail.com
東京都青年国際交流機構	神戸 知子	H13東ア(28回)	tokyoiyeo@yahoo.co.jp
神奈川県青年国際交流機構	酒井 敏之	S54東ア(6回)	ieyekanagawa@yahoo.co.jp
山梨県青年国際交流機構	松川 裕子	H3東ア(18回)	※hq@iyeo.or.jp

東海ブロック

岐阜 静岡 愛知 三重

岐阜県青年国際交流機構	戸崎 政寿	H13日中(23回)	※hq@iyeo.or.jp
静岡県青年国際交流機構	加戸 真未	H13東ア(28回)	shizuoka.iyeo@gmail.com
愛知県青年国際交流機構	高山 将宏	H15日韓(17回)	info@iyeo-aichi.jp
三重県青年国際交流機構	白木 邦貞	H17世界(18回)	mie-iyeo@hotmail.co.jp

四国ブロック

徳島 香川 愛媛 高知

徳島県青年国際交流機構	近森 由記子	H20世界(21回)	tokushima.iyeo@hotmail.co.jp
香川県青年国際交流機構	菅 圭介	H15世界(16回)	kagawaiyeo@gmail.com
愛媛県青年国際交流機構	澤田 乃理子	H22世界(23回)	e-iyeo@hotmail.co.jp
高知県青年国際交流機構	前田 正也	S55船(14回)	kochi.iyeo@gmail.com

北信越ブロック

新潟 富山
石川 福井 長野

新潟県青年国際交流機構	小林 恵子	H10世界(11回)	niigataiyeo@gmail.com
富山県青年国際交流機構	日南田 美幸	H3世界(4回)	iyeo_toyama@hotmail.co.jp
石川県青年国際交流機構	蔵 真基子	H13スウェーデン(8回)	※hq@iyeo.or.jp
福井県青年国際交流機構	峯田 雅朗	H18コア(5回)	fukuiiyeoh21@yahoo.co.jp
長野県青年国際交流機構	樋口 敦子	H5世界(6回)	ieyonagano@yahoo.co.jp

近畿ブロック

滋賀 京都 大阪
兵庫 奈良 和歌山

滋賀県青年国際交流機構	刘森 千恵	H18世界(19回)	shiga-iyeo@kohara.info
京都府青年国際交流機構	荒田 圭久	H1世界(2回)	kyotoiyeo@hotmail.co.jp
大阪府青年国際交流機構	高宮 昭仁	H20コア(7回)	osakaiyeo@gmail.com
兵庫県青年国際交流機構	関本 彩子	H20世界(21回)	iyeo.hyogo@gmail.com
奈良県青年国際交流機構	小野 智恵美	H21日中(31回)	iyeo.nara@gmail.com
海友会(和歌山)	出羽 正典	H16日中(26回)	kaiyukai.iyeo@gmail.com

中国ブロック

鳥取 島根 岡山
広島 山口

とっとり青友会	河崎 忠義	H6東ア(21回)	tottoriseiyuukai@yahoo.co.jp
国際ネットワークしまね	池田 俊貴	H20コア(7回)	inshimane@gmail.com
岡山県青年国際交流会	長木 愛	H12東ア(27回)	okayamaiyeo@hotmail.co.jp
広島県青年国際交流機構	兼友 昭典	H20東ア(35回)	hiroshima.iyeo@gmail.com
山口県青年国際交流機構	徳富 信恵	H17世界(18回)	y_iyeo@yahoo.co.jp

九州ブロック

福岡 佐賀 長崎 熊本
大分 宮崎 鹿児島 沖縄

福岡県青年国際交流機構	岡部 恵子	H19日韓(21回)	fukuokaiyeo@yahoo.co.jp
佐賀県青年国際交流機構	野口 菜央子	H21世界(22回)	sagaiyeo@gmail.com
長崎県青年国際交流機構	山田 公美	H16コア(3回)	※hq@iyeo.or.jp
熊本県青年国際交流機構	本山 香菜子	H18東ア(33回)	※hq@iyeo.or.jp
大分県青年国際交流機構	田中 一旭	H25コア(11回)	oita.iyeo@gmail.com
宮崎県青年国際交流機構	荒武 千穂	S58東ア(10回)	※hq@iyeo.or.jp
鹿児島県青年国際交流機構	土井 敦	H22コア(9回)	kagoshimaiyeo@gmail.com
沖縄県青年国際交流機構	岸信 朋	H24世界(25回)	okinawa.iyeo@gmail.com



人生に彩りを与える船旅があります。

青い空を写し出す大海原、想像を超えた自然の造形美、史跡の数々…。
にっぽん丸の船旅は、驚きと発見の連続です。
新しいものへの知的好奇心は、人生にさらなる彩りを与えるでしょう。
一度は見たかったあの風景へ。にっぽん丸が、皆さまをお連れいたします。

さあ、にっぽん丸で出かけましょう。

○詳しいパンフレットをご用意しています。最寄りの旅行会社または、下記へお問い合わせください。

クルーズデスクフリーダイヤル 9:30~17:00(土・日・祝はお休みです) 〒107-8532 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル5階

商船三井客船 ☎0120-791-211 <http://www.nipponmaru.jp>

撮影:三好 和義

■IYEOオリンピック・パラリンピック 2020ボランティア通訳翻訳制度

IYEOでは、2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックの実施に向けて、IYEO会員の多様な人材の能力をいかして貢献することを通して、会員等の社会貢献意識をさらに高めるため、「IYEOオリンピック・パラリンピック2020ボランティア通訳翻訳制度」を設けます。これらの活動を通じて、他団体との連携を図るとともにIYEOの社会的認知度を高めることもねらいます。

平成27年11月から、IYEO会員(前大分県IYEO会長 阿部友輝さん)が理事を務める「日本肢体不自由者卓球協会」より、国際大会の開催要項などの翻訳依頼を受け、これまでに8回の依頼のもと18ファイルの翻訳協力をしてきました。

パラリンピックに出場するためには、大会で決められている標準記録を超えることや、出場を希望している競技種目の中で世界選手権などの大会において上位に入る等して、出場権を獲得する必要があります。これまで、IYEO会員の翻訳ボランティアが協力した開催要綱は日本肢体不自由者卓球協会のウェブサイトにも掲載され、多くのアスリートの役に立っています。



www.ne.jp/asahi/para/tabletennis

IYEOでは、オリンピック・パラリンピック2020ボランティア通訳翻訳制度に協力できるボランティア登録を始めます。ボランティアに興味がある方、協力対象団体として興味がある方は op2020@iyeo.or.jp へ御連絡ください。

日本肢体不自由者卓球協会 選手兼国際部代表 立石アルファ裕一さんからの メッセージ

スペイン大会は申込多数で参加を断られている国が出ていましたが、お陰様で無事に申し込み完了することができました。

そのような中、翻訳いただいた要項があったお陰で問題なくエントリー手続きができ、日本チームは参加が受け入れられました。ひとえに翻訳ボランティアの皆さまのお陰です。本当にありがとうございました。大感謝しております。(平成28年5月24日)

スペイン大会に行つてまいりました。その後私はルーミア大会にも転戦してきました。

結果については協会ウェブサイトに掲載のとおりです。私も何とか2大会でメダルが取れて少し安堵、もつとできるという悔しさが同居している状態です。(平成28年7月5日)



平成28年6月16日~18日 アル・ブラ・ダ・リョブレガート(スペイン)で開催されたスペインオープンに参加した日本チーム

■大規模災害復興支援活動

平成28年2月に、フィジー共和国(フィジー)で発生したサイクロン・ウインストンの影響により、甚大な被害が発生しました。その被害に対し、IYEOはSWYAAフィジーへ積立金\$1000を送金しました。その後IYEOを通じて集まった寄付金の総額は88,100円となりました。

SWYAAフィジーは、被害のひどかったナヴィティレヴ村の住人50家族に、家庭用品セット(調理器具、カテラリ、タオル、バスケット、清掃用具、洗剤、洗濯ばさみ、石鹸、蚊帳等)を届けました。



SWYAAフィジーから被災住民への家庭用品セット贈呈式



特に西部では被害がひどく、ビニールシートを使って暮らしている状況